

宇都宮市ごみ焼却施設（仮称）新クリーンパーク茂原整備基本計画【概要版】

第1章 計画の概要

1.1 背景と目的

宇都宮市（以下「本市」という。）では、クリーンパーク茂原及びクリーンセンター下田原の2工場体制でごみの焼却処理を実施しています。そのうちクリーンパーク茂原は、平成13年3月の竣工から20年以上が経過しており、（仮称）新クリーンパーク茂原ごみ焼却施設（以下「新施設」という。）整備の検討が必要な状況です。

このような状況の中、本市は令和6年3月に宇都宮市一般廃棄物処理施設（ごみ焼却施設）整備基本構想（以下「基本構想」という。）を策定し、新施設の基本的事項の方向性について明らかにしました。また、新施設は、クリーンパーク茂原既存ごみ焼却施設を更新（建替え）する計画です。

宇都宮市ごみ焼却施設（仮称）新クリーンパーク茂原整備基本計画では、上記の経緯や社会情勢の変化を踏まえて、本市が目指すべき姿を実現するため、新施設の基本事項をとりまとめました。



2.2 施設規模

一般廃棄物処理基本計画における目標値等を踏まえ、国の新しい施設規模算出式をもとに、基本構想で設定した施設規模の見直しを行いました。

施設の種類	処理対象物	計画目標年度	計画ごみ処理量	施設規模
新施設	焼却ごみ, 可燃粗大ごみ, 処理残渣, し渣	令和15年度	84,230 t/年	319 t/日 (最大) (うち災害廃棄物 29 t/日)

2.3 ごみ処理方式

基本構想で選定した6つのごみ処理方式（「ストーカ式焼却炉」、「ストーカ式焼却炉 + 灰溶融」、「流動床式焼却炉」、「メタンコンバインドシステム」、「シャフト式ガス化溶融」、「流動床式ガス化溶融」）に対し、メーカーへのサウンディング調査の結果及び社会情勢や市場動向を踏まえ、総合的な評価を実施。

⇒ 「ストーカ式焼却炉」を選定

【選定理由】

- 1.安全・安心かつ経済性に優れた施設 ⇒ 採用実績が最も多く経済性に優れる。
- 2.環境に負荷をかけないやさしい施設 ⇒ 二酸化炭素排出量が少ない。
- 3.循環型社会の形成に貢献できる施設 ⇒ エネルギー供給量（売電量）に優れる。

第2章 施設の基本条件

2.1 整備コンセプト

1 （安全・安心かつ経済性に優れた施設）

- (1) 安全かつ安定的に稼働する施設とします。
- (2) 施設整備コストや維持管理コストを抑えた経済性の高い施設とします。

2 （環境に負荷をかけないやさしい施設）

- (1) 排ガス等の対策が万全な施設とします。

3 （循環型社会の形成に貢献できる施設）

- (1) ごみ処理から得られるエネルギーなどを最大限に活用し、循環型社会の形成に貢献できる施設とします。

4 （災害に強い施設）

- (1) 災害発生時においてもごみ処理を継続できる施設とします。

5 （地域と調和し、市民に開かれた施設）

- (1) 周辺環境と調和し身近に感じられる施設とします。
- (2) ごみの減量化や資源化の大切さを伝えられる施設とします。

第3章 施設計画

3.1 環境保全計画

① 環境保全計画値の設定に係る基本的な考え方

環境保全計画値（自己規制値）については、クリーンパーク茂原既存ごみ焼却施設と同等とします。なお、排ガス自己規制値の水銀は法規制値が変更されています。

② 排ガス自己規制値及び排ガス対策

項目	単位	クリーンパーク茂原（既存ごみ焼却施設）		新施設自己規制値
		関係法令等の基準	自己規制値	
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.1	0.1	0.1
はいじん	g/m ³ N	0.04	0.02	0.02
硫黄酸化物 (SO _x)	ppm (K 値)	— (8)	30 (約 0.1)	30 (約 0.1)
塩化水素 (HCl)	ppm	430	50	50
窒素酸化物 (NO _x)	ppm	250	70	70
水銀 (Hg)	μg/m ³ N	30	50	30

